

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 4 年 5 月 12 日

事業所名 児童発達支援びあ 保護者等数(児童数) 2 回収数 2 割合 100 %

	チェック項目	保護者等数(児童数)				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	100%	0%	0%	0%		
	2 職員の配置数や専門性は適切である	100%	0%	0%	0%		
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	0%	0%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	0%	0%		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	100%	0%	0%	0%		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	0%	0%		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	0%	0%		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	100%	0%	0%	0%		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	50%	0%	0%	50%		※現在コロナ禍のため自粛中。「びあ」利用児童は、初めての人や場所にパニックを起こすので、近接する公園で運動遊びをしている時に、顔見知りとなった地域の子供たちとの交流を図っていました。
適切な 支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	100%	0%	0%	0%		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	100%	0%	0%	0%		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	100%	0%	0%	0%		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100%	0%	0%	0%		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	100%	0%	0%	0%		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	50%	0%	0%	50%		
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	100%	0%	0%	0%		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	100%	0%	0%	0%		
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	50%	0%	0%	50%		会報は発行していないが、毎日の「サービス提供記録帳」や、必要に応じてチラシを配布して、活動状況の報告や行事予定の周知、健康等の注意喚起を行っています。
19 個人情報の取扱いに十分注意されている	100%	0%	0%	0%			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
非常時 等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	100%	0%	0%	0%		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	100%	0%	0%	0%		
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしている	100%	0%	0%	0%	楽しく行ってくれているので、安心しています。	有難うございます。更に喜んで来て下さるよう、きめ細やかな関わりを心がけます。
	23	事業所の支援に満足している	100%	0%	0%	0%	何時も丁寧に連絡帳を書いて下さり分りやすく有難いです。	有難うございます。これからも、できるだけ日中活動の様子をお伝えできるように取り組んで参ります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4 年 5 月 12 日

事業所名 児童発達支援 びあ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	事務スペースで個別対応。プログラムを行うスペースは十分確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	専門職である保育士を、定数2名に対して更に2名を追加配置しており、合計4名の保育士で手厚い療育を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	事業所内は全面フラットで、入口はスロープにしており、トイレや手洗い場もフラットにして段差をなくし、つまづきや転倒の防止に努めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	プログラムスペースは常に清潔保持に留意し、療育において子ども達に整理整頓の訓練をしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	始業前に短時間で打ち合わせ。つねに個々の職員との振り返りを通じて目標に対しての現状認識を共有している。	シフトの関係で、全体会議で一堂に会するのは難しいが、工夫して行えるように調整していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケート結果、保護者会(現在はコロナ禍のため開催自粛)、家庭訪問などにより、保護者の意向を把握し、迅速な改善に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	保護者様へのアンケート調査結果を受け、業務改善に向けた見直しを行い、自己評価結果をHPに公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%	常に、大阪府障がい児通所支援事業の研修会を積極的に受講し、業務改善に繋げている。	第三者による外部評価については、今後の課題として実施に向けて調査検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員を順次、大阪府、門真市の研修講座に参加させ、所内で伝達講習を行って全職員の資質向上を図っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	利用者の主治医、担当心理士や支援相談員からの情報、及び日々の行動観察記録を活用し、保護者との面談情報を加味して個別支援計画を策定し、療育を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	「マキノ・中島式」発達検査を使用している。	
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	個別の児童発達支援計画に、発達支援(本人)、家族支援、地域支援に当る項目を入れ、利用児童に必要な、総合的支援内容を設定するよう配慮をしている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	児童発達支援計画を基に療育プログラムを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	80%	20%	児発管を中心として利用児童の支援計画を基に職員個々で展開、役割分担、課題の確認を行っている。	シフトの関係で、全体会議で一堂に会するのは難しいが、工夫して行えるように調整していく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	野外活動、調理実習、手芸、工作など多彩なプログラムを用意し、子供達の興味を引き出して、活動の目的が身につくように工夫して療育を進めている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	学習、工作、手芸、PC、異年齢を交えた遊び、個人活動と集団活動を合わせて支援計画作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	シフトの関係で短時間ながら、支援PG、役割分担、注意点などを確認、職員間の意思疎通を図っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80%	20%	勤務シフトの関係で早朝の職員には、翌日の始業時に振り返りと反省を行い、職員間で確認しあっている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	サービス提供記録、療育記録、学習記録を作成して活用。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	個別、定期的に行い、必要があれば計画を見直している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	80%	20%	児童の状況に最も精通している児発管が参画し、その結果の内容報告と会議録や資料を通じて職員の間で共通理解を図っている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	幼稚園等と情報共有、連絡調整し連携を密にしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当事由なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当事由なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	支援記録、学習記録等や、モニタリングデータ等を用いて情報提供できる体制を整えている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	支援記録、学習記録等や、モニタリングデータ等を用いて情報提供できる体制を整えている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	大阪府の通所事業所育成事業や門真市の連絡会と連携し、常に研修・助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	「びあ」利用児童は、初めての人や場所にバニックを起こすので、近接する公園で運動遊びをしている時に、顔見知りとなった地域の子供たちとの交流を図っている。※現在コロナ禍のため自粛中。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	地域での児童発達事業所協議会や、交流会に参加。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	サービス提供記録帳と家庭連携、保護者会(コロナ禍で自粛中)で子供の様子、問題行動、発達状況を共有している。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	一昨年、4月からペアレント・トレーニングのプログラムを実施予定であったが、コロナ禍のために延期状態となっている。	コロナ禍状況が好転するまで、保護者との連携を密にし、すぐに相談、家庭連携などで対応、親支援に注力し続けている。コロナ禍が落ち着けば、ペアレント・トレーニングのプログラムを実施する予定である。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約当初に詳しく説明するとともに、随時状況に応じて保護者に対して必要な説明を丁寧に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	保護者の要望、児童発達利用計画案、発達評価や検査結果などを総合的に勘案して児童発達支援計画を作成し、丁寧に説明して同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	親支援を重要な柱と位置付け、積極的に声掛けて相談しやすい環境を作り、助言、支援を実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	例年は、毎月「保護者の会」を開催して保護者同士の連携を図り、活発な意見交換を行っていたが、コロナ禍の為休止状態が続いている。保護者は再開を待ち望んでいるが、現状は厳しい。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情には、どんな小さなトラブルでも「サービス提供記録帳」や電話で保護者に説明し、迅速かつ丁寧な対応を心がけている。常に課題に対する解決策を見出す努力を続けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	会報は発行していないが、毎日の「サービス提供記録帳」や、必要に応じてチラシを配布して、活動状況の報告や行事予定の周知、健康等の注意喚起を行っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	大阪府個人情報保護条例の規定通り配慮している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	特に、「視覚」から情報が入るように配慮している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	近くの老人施設に訪問交流、近くのお弁当屋で買物実習、餅つきの餅を近隣に配布など、積極的に交流している。※コロナ禍により自粛中	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	「びあ」としての新型コロナ対策マニュアルや、緊急時対応マニュアルを作成し、周知している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	防災タペストリーなどを使って防災意識を高めて、避難コースを実際に歩いたり、初期避難などの訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	常に保護者に確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	タマゴアレルギーや、甲殻類アレルギーの児童がいるが、保護者を通じて医師の指示を確認し、家庭の協力も得て、適切に対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	事業所内で周知し、改善を図っているが、更に徹底していく。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	順次職員を虐待防止研修に参加させていたが、2年前からコロナ禍の為に研修が開催されていない。	ビデオを使った所内研修を充実させていく予定。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している			該当事由なし	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。